

松江市の防災、現状と対策は 新婦人松江支部が市防災部と懇談

1月25日、新日本婦人の会松江支部（神門喜久子支部長）は「松江市の防災備蓄品と今後の計画」について市防災部危機管理課（高木賢一課長）と懇談しました。



危機管理課職員と懇談する新婦人松江市支部の皆さん

新婦人松江支部は、昨年能

登半島地震を受けて、市内の公民館にかけつけ防災備蓄品についてアンケートを行い、公民館毎の調査結果をまとめ、この度懇談を企画しました。懇談内容は、①何をどのように備蓄しているか、②備蓄されていないものや長期避難に備え他自治体や民間などどこに何を依頼しているか連携状況、③防災計画に女性の意見反映をされているか、④防災担当部署への女性配置割合と男女共同参画課との連携についての4項目です。

現在公民館には水と食料が基本で、段ボールベッドやテント携帯トイレ等は「市の防災倉庫」である総合体育館に主に備蓄しており、災害時は市の担当職員が物資の運搬をすることになっているとのことでした。水、食料、トイレ（携帯・簡易）、生理用ナプキン、大人用子供用オムツ、発電機などの公民館ごとの状況、たな卸しの頻度などについて懇談しました。昨年の能登半島地震を受けて、食料の備蓄が県と市の協力で1日分から2日分となり、これから計画をたてることでした。

参加者から「福祉避難所はどうなっているか」「石川で災害関連死が多く心配している」など発言があり意見交換しました。たちばなふみ松江市議が同席しました。

たちばなふみ市議を再び市政へ 地元八束町で議会報告会



報告する たちばな市議

たちばなふみ市議の友人のフルート演奏で会が始まり、たちばな市議が写真やYouTube配信している動画で議会報告を行いました。

たちばな市議は「みなさんの声を届けることが議員の役目、合併した周辺部、八束の願い、女性や子どもお年寄りといった弱い立場の皆さんの声を一生懸命議会に届け、議会報告を毎議会発行してきました。引き続き声を届ける役目をがんばらせてください」と決意表明しました。

尾村利成県議が「松江市は、総合体育館改修、松江テルサ撤去、そして原発再稼働と、市民の声を聞かない政治を行ってきた。市民の声を聞けと頑張るたちばなさんを再び市政へ送って下さい」と呼びかけました。

参加者から「中学の校則について取り上げられ嬉しい。若い世代の希望の星」「議会傍聴し、市長は国の言いなりではないですかとふみさんが言われて、私もそうだしと思っただ」「原発反対。避難ができれば不安」「介護が大変。他市町村の進んだ取り組みを松江でも」などと励ましや要望が次々寄せられました。

被爆80年を核兵器廃絶の年に 県原水協が核禁条約発効4周年のつどい開催



被爆体験を語る角工ミコさん

1月18日、「核兵器禁止条約発効4周年のつどい」が松江市民活動センターで開催されました。

松江市在住の日本被団協代表理事本間恵美子さんをお招きして、ノルウェーのオスロで開かれたノーベル平和賞受賞式の様子を聞きました。

被爆80年を核兵器廃絶の年とするため、日本政府に核兵器禁止条約参加を求め署名に取り組む事が訴えられました。

（島根県原水協事務局 徳永 和洋氏 寄稿）



最後は、島根うたごえ協議会とチーム馬毛鹿のメンバーが島根オリジナル曲『ヒロシマ』と『春、馬毛鹿の角はドンと落ちる』を披露

続いて、被爆者の角工ミコさんが被爆体験を報告されました。原爆投下時、幸いにも本人は壁の影にいて爆風には巻き込まれず、無傷でしたが、帰路歩いた時の街の惨状が生々しく語られました。

参加者からは「被爆体験を語り継ぐことの大切さを実感」「平和賞をもらったことで終わりではなく、ここからがスタートという言葉が印象的」「願うだけでは平和は訪れない。ひとり一人が出来ることを考えた」「注目が集まっているので、平和に向けたアクションを」等、感想が寄せられました。



会場いっぱい。70人の参加者